

WIENER JOHANN STRAUSS ORCHESTER

Johann Strauss

“ワルツ王”ヨハン・シュトラウス2世が創設したヨハン・シュトラウス管弦楽団を継承し、ウィーン・フィルと並び称される世界最高のウィンナ・ワルツ、ポルカを聴かせてくれるウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団が奏でるワルツ、ポルカ、オペレッタの名曲の数々をお楽しみください。

PROGRAM

ヨハン・シュトラウス2世

オペレッタ「こうもり」序曲

ヨーゼフ・シュトラウス

ポルカ・フランセーズ「芸術家の挨拶」 Op.274

ワルツ「水彩画」 Op.258

ポルカ・シュネル「憂いもなく」 Op.271

ヨハン・シュトラウス2世

「エジプト行進曲」 Op.335

ワルツ「ウィーン気質」 Op.354

ヨハン・シュトラウス2世

オペレッタ「ローマの謝肉祭」序曲

ヨーゼフ・シュトラウス

ポルカ・シュネル「休暇旅行で」 Op.133

フランツ・レハール

ワルツ「金と銀」 Op.79

ヨハン・シュトラウス2世

ポルカ「雷鳴と稲妻」 Op.324

ヨハン・シュトラウス2世&ヨーゼフ・シュトラウス

ピチカート・ポルカ

ヨハン・シュトラウス2世

ポルカ・シュネル「ハンガリー万歳！」 Op.332

ワルツ「美しく青きドナウ」 Op.314

※曲目、曲順は変更となる場合があります。

PROFILE

ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団 *Wiener Johann Strauss Orchestra*

ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団は、その前身ヨハン・シュトラウス管弦楽団として、1844年に弱冠19歳のワルツ王ヨハン・シュトラウス2世により結成され、世界中で愛されるウィーン音楽を生み出し、ウィンナ・ワルツを演奏する真の楽団としてその伝統を継承しゆるぎない地位を築いている。

エドゥアルト1世の孫でワルツ王シュトラウス2世の又甥にあるエドゥアルト2世の時代に、“ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団”と改称し、ウィーン・フィルのニューイヤー・コンサートで有名な名物コンサートマスターのウィリー・ボスコフスキーの時代にその名声をさらに高めていった。

またゴールドシュミット、ヴェス、エシュヴェジークハルト、ルードゥナーなどの著名な指揮者を招いて、ワルツ王シュトラウス一族が築いたウィンナ・ワルツの伝統を今に受け継ぎ、聴衆を魅了し続けている。

ヨハネス・ヴィルトナー (指揮) *Johannes Wildner, Conductor*

元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のヴァイオリニスト。国立コシツェ・フィルハーモニー管弦楽団、ブラハ国立歌劇場、ライプツィヒ歌劇場などの首席指揮者を経て、1997～2007年ノイエ・フィルハーモニー・ヴェストファーレンの総合音楽監督を務め、2010～2014年にはBBCコンサート・オーケストラの首席客演指揮者も務めた。また2014年からはウィーン郊外のガルス城で行われる夏恒例のオペラ・フェスティバル「ガルス野外オペラ」の総監督を務めている。

これまでにロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、バイエルン放送交響楽団、北ドイツ放送交響楽団、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン交響楽団などを指揮し、2008年よりウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団への客演でウィーン楽友協会ホールにて好評を博している。

100枚以上のCDやDVDをリリースする一方、オペラの指揮にも力を注ぎ、アレーナ・ディ・ヴェローナ「カルメン」、新国立劇場「こうもり」など各地で大成功をおさめている。

